

1 自己評価及び外部評価結果

(ユニット名 もも太郎さん米沢 2F)

事業所番号	0670400969		
法人名	株式会社ジェイバック		
事業所名	認知症型共同生活介護・もも太郎さん米沢		
所在地	米沢市通町5丁目3-46		
自己評価作成日	令和 7 年 9 月 20 日	開設年月日	平成 16 年 2 月 1 日

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

季節の行事を大切にしており、外出をした際には季節の移り変わりを実感して頂いております。行事食では季節の旬の物を手作りで提供し味わって頂いております。又、施設内レクリエーションでは、職員が企画し入居者様と職員と一緒に楽しんで頂いております。感染症対策では、施設内の消毒はもちろん、入居者様や職員の感染症対策を行い、職員が感染症を持ち込まないように徹底しております。もし、施設内で感染症が確認されたら、早急に各所へ連絡し、指示を仰ぎ、感染拡大防止に努めております。

※事業所の基本情報は、公表センターページで検索し、閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先 <http://www.kaigokensaku.mhlw.go.jp/>

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	特定非営利活動法人エール・フォーユー		
所在地	山形県山形市小白川町二丁目3番31号		
訪問調査日	令和 7 年 10 月 20 日	評価結果決定日	令和 7 年 11 月 13 日

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

買い出しから調理まで事業所で行い、職員が店に行き新鮮なものを選んで購入して、旬の物や昔から食べ慣れた郷土料理中心の手作り料理を提供し利用者に大変好評です。ホールから見えるキッチンでは、調理の音や匂いが五感を刺激し、平均年齢89歳とは思えないほど食欲旺盛においしく食べ健康維持に繋がっています。また、利用者の要望を聞いてのドライブでは、自ら道案内をして懐かしみ会話が弾んで笑顔が見られています。職員は内・外部研修に積極的に参加し質向上に努め、看取りを含め重度化した場合も、家族等・主治医と連携し、最期まで住み慣れた場所で利用者へ寄り添い「その人らしい」生活ができるよう支援している事業所です。

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいの 3. 利用者の1/3くらいの 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、活き活きと働いている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごしている (参考項目:30,31)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない			

山形県地域密着型サービス「1 自己評価及び外部評価(結果)」

※複数ユニットがある場合、外部評価結果は1ユニット目の評価結果票にのみ記載します。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1		○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義を踏まえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	事務所には理念を掲示している。又、管理者と各職員は常に話し合いを行い、情報の共有に努めている。その上で、施設独自の理念の実践に繋げている。		
2		○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	新型コロナウイルス感染は、5類に移行したものの、完全に終息している訳ではない為、地域の清掃作業の参加に止まっている。感染終息の兆しが見えない為、関係する方々と相談の上、対応する様になっている。		
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	施設内での研修会や外部での研修には進んで参加している。又、運営推進会議を通して、情報を発信する機会を設けている。		
4		○運営推進会議を活かした取組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	2か月に1回の運営推進会議を開催し変更事項や施設内での取り組み、ヒヤリハットや事故事例の報告を行い、地域との繋がりが持てるよう意見交換を行っている。		
5		○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くよう取り組んでいる	定期的に市町村の担当者と情報交換を行い、ご意見、ご要望を伺っている。又、運営推進会議でも社会福祉協議会の方に参加して頂き、ご意見を頂いている。		
6	(1)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、環境や利用者の状態を考慮しながら、玄関に鍵をかけない工夫や、身体拘束をしないで過ごせるような工夫に取り組んでいる	定期的に身体拘束防止に関する委員会を開催しており、各入居者様の尊厳を尊重し身体拘束を行わないケアに関して話し合いを行っている。そこで話合ったことは、議事録を回覧し、各職員に厳守を求めている。	身体拘束廃止委員会を3か月毎に開催し、困難事例について話し合い、ユニットで共有し、寄り添う介護に努めている。運営推進会議で、事故・ヒヤリハットの報告を行い、取り組みや現状を理解してもらっている。内・外部研修を通して、利用者の人権を守り身体拘束をしないケアを実践している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
7	(2)	○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止法等について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることがないように注意を払い、防止に努めている	定期的開催する施設内での研修を通して、虐待法の意義や種類の内容を職員に発信し虐待防止に努めている。又、外部で開催される研修には進んで参加している。	虐待防止検討委員会は身体拘束の委員会と一体的に開催している。職員は虐待防止についての研修や怒りをコントロールする心理トレーニング、接遇マナーや権利擁護など多方面から利用者主体のケアについて学び、人権を守り適切なケアの提供に努めている。	
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるように支援している	施設内でも成年後見人制度を利用されている入居者様がおられる。その為、外部研修や施設内研修を行い、仕組みや権利擁護に関し、各職員が学ぶ機会を設ける様にしている。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	入居の際、個々に説明を行い同意を得ている。重要事項説明書の内容に変更があれば事前に説明を行い、納得して頂けるように心掛けている。		
10	(3)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員並びに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	管理者、各職員が入居者様、ご家族様と常に関わりを持ち、ご意見や要望等を面会時や電話で伺うようにしている。その要望は運営推進会議で反映するようにしている。	家族等との面会は、制限はあるが居室で出来るようになり、双方から喜ばれている。家族等からの意見や要望は面会時やケアプランの更新時などに聞いて運営に活かし、利用者には何気ない会話の中から聞き取り、散歩や外出などに繋げて笑顔が見られている。	
11		○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	毎月行っている職員会議を通して、各職員の意見や要望を聞く機会を設けている。		
12	(4)	○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	各職員が常にやりがいや向上心を持ち、仕事が出来る様、職場環境の整備にも積極的に取り組んでいる。	代表者は、職員の給与等待遇面での改善を行い、モチベーションアップに繋げ、また、資格取得のための援助体制や資格手当などで意欲を持って働けるよう職場環境の整備に努めている。勤務表は職員の希望に沿って作成し、急な休暇に対しても協力し合っている。	
13	(5)	○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	各職員の力量を把握し、外部研修を受ける機会を設け、介護技術の向上に努めている。	研修計画に沿った内部研修は、法定研修を中心に毎月の職員会議で担当職員が講師となって進め、他にも法人ブロック単位で階層別研修を実施するなど学ぶ機会を多く設けている。外部研修にも積極的に参加して伝達研修などで共有し、職員の質向上に努めている	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会をつくり、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取組みをしている	外部研修を通して、他者との情報交換を行い、さらなるサービス向上に繋げている。		
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	入居をする前に実態調査を行い、ご本人様の想いやご家族様の要望を傾聴し、安心して生活が出来る環境作りに努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスの利用を開始する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	上記同様に、入居をする前に実態調査を行い、ご本人様の思いやご家族様の要望を傾聴し、安心して頂ける様、信頼関係作りに努めている。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスの利用を開始する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	上記同様に、入居をする前に実態調査を行い、ご本人様の思いやご家族様の要望を傾聴し、安心して頂ける様、信頼関係作りに努めている。		
18	(6)	○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場に置かず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	ご本人様が出来る事、やりたい事を最大限に尊重し他入居者様との共同生活を通して、共に支えあえる関係作りに努めている。	大まかな一日の流れの中で、タオルや新聞たたみなどを職員と一緒にすることで会話が弾み、穏やかに過ごしている。歌や健康体操など利用者同士が楽しく生活できるよう職員が関わり、不穏な時は一緒に散歩に出かけるなど個別に対応し、利用者寄り添った支援をしている。	
19		○本人を共に支え合う家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場に置かず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	施設独自の理念として、「家族の絆」がある。施設で発行しているえがお(新聞)やご家族様との対話を通じて、信頼関係を構築し、共にご本人様を支えあう関係作りに努めている。		
20	(7)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	感染対策を行いながら、面会も出来ている。時間制限はある中で馴染みとの面会を行い、関係維持に努めている。	利用者は、孫やひ孫が盆・正月など帰省した時に面会し、再会を喜んでい。地域のコミュニティーセンターで開催された文化祭に見学に行ったり、季節ごとのドライブや利用者の自宅へのドライブでは、近くになると自ら道案内をして懐かしみ、話が弾んで笑顔が見られている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者様一人一人が、毎日楽しく過ごして頂ける様に、必要に応じ職員が介入するなど、共に関わり支え合える環境に努めている。		
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用（契約）が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	契約終了であっても、ご本人様やご家族様との関係を大切に相談事があれば、受け入れている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23		○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	事前の面談や実態調査の際に、これまでの生活歴や趣味などを詳しくお伺いし、ご本人様の希望に沿った支援を行う様にしている。又、日々知り得た情報はアセスメントシートやケース記録に残し関わりのヒントとしている。		
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	これまでの生活歴や生活環境、他のサービス利用等、ご本人様やご家族様にお伺い、今後の支援に繋げる事が出来る様に対応している。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	日々の状態観察に加え、入居者様が無理なく生活出来る様に、生活リズムや身体状態の把握に努め支援している。		
26	(8)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	毎月のカンファレンスやモニタリングを通して本人の思いや家族の意向の確認を把握し、介護計画書の作成と評価を行っている。	担当職員のモニタリング(観察)を基にカンファレンス(検討会)を行い、利用者・家族等の意見を取り入れながら生活支援計画書(介護計画書)を作成している。変化があった時は現状に即してプランの見直しをしている。	
27	(9)	○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	毎日の入居者様の様子や出来事を各職員が詳細に記録し、情報共有に努めている。その上で、生活支援計画書(介護計画書)の見直しを行っている。	業務日誌や個人記録は手書きで記録している。個人記録は日々の様子や気づきをケアプランに沿って記入し、見直しに反映している。日中と夜間、健康面は色別に記入し職員にわかりやすいよう統一している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われず、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	個別ケアを行うにあたり、一人一人にあったサービスの提供を心掛け、マニュアルに捉われず、柔軟性を持って、個々の希望に沿ったサービス提供に努めている。		
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	松川コミセンで開催されている、文化祭を見学に行くことで、行事に参加したいという意欲を高め、自身の力を発揮できるように支援している。		
30		○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、かかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	施設主治医による月1回の訪問診療を受け、各入居者様の日々のご様子を詳しくお伝えし、診療に役立てて頂く様にしている。又、入居者様急変時は、主治医に指示を仰ぐ様、支援している。		
31		○看護職員との協働 介護職員は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職員や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	毎日、各入居者様の健康チェックを行い、体調の変化が見られる際はその都度、主治医や担当医、訪問看護に報告し、指示を仰ぐようにしている。		
32	(10)	○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、また、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。又は、入院治療が必要な可能性が生じた場合は、協力医療機関を含めた病院関係者との関係づくりを行っている	入居者様の入院時は安心して治療に専念出来るようにご家族、病院関係者と密に情報交換し、早期に退院できるように常に病院関係者との関係作りに取り組んでいます。	現在入院している方はいないが、利用者全員が訪問診療医が主治医となり、入院が必要になった場合は主治医が医療機関に繋いでいる。入院時は病院の相談員や病棟看護師と連絡を密にし、どの状態になったら退院できるか家族等も交え確認しながら早期退院に向けて支援している。	
33	(11)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、医療関係者等と共にチームで支援に取り組んでいる	看取りについて早い段階からご家族様と主治医と話し合いを行い、方針を共有している。	経口摂取ができない、常時医療行為が必要となった場合は、終末期に向けて主治医と利用者・家族等、事業所との話し合いにおいて「医療機関に対応を依頼する」「緊急時は救急搬送を希望する」「事業所で出来る支援を受ける」等の意向を確認し、それに向けた支援に取り組んでいる。	

自己	外部	項目	自己評価		外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	施設内に教育委員が設置されており、定期的に事故防止の話し合いを行っている。又、入居者様の急変時や事故発生に備え、対応マニュアルを作成し、各職員が対応できるようにしている。			
35	(12)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防立ち合いの下、総合避難訓練を年に2回実施している。又、事業所独自の避難訓練も定期的に行っている。又、災害時マニュアルを作成し各職員が緊急時に備え、対応出来る様にしている。	総合避難訓練を年2回計画し、2か月毎のプチ訓練(地震・夜間想定・緊急連絡網の訓練…)も実施して、来る12月は雪の時期を見据えて予定している。また事業継続計画に向けてはシートを活用して避難所や職員各自の役割、備蓄の整備等を確認し、自然災害・感染症対策に備えている。	二階建ての事業所で介護度の高い利用者も多くいることから避難訓練は数を重ねて実施している。またヘルメットも利用者分備えており、更には非常時持ち出し品のリストに利用者情報も加えて整備されることに期待したい。	
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援						
36	(13)	○一人ひとりの人格の尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	人生の大先輩である事を常に念願に置き、一人一人に丁寧な言葉掛けを行い、羞恥心、自尊心にも配慮した対応をしている。	研修で認知症の様々な症状を理解し、利用者一人ひとりの姿をよく見てその方に合った対応に努めている。トイレや居室での排泄介助の時は羞恥心やプライバシーに十分配慮することを心掛け、皆のいるホールでは個人情報に伴う話をしないように気を付けている。		
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	毎日の生活の中で、ご自分の考えや希望を自由に言葉に出来る雰囲気作りに努め、自己決定が出来る様に対応している。			
38	(14)	○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	一人一人のペースに合わせた支援を行い、入居者様の希望に沿って日々の生活を楽しく過ごして頂けるように対応している。	100歳を超えた方もおり、重度の方も体調を見ながらリクライニング車椅子で皆と一緒にホールで毎日を過ごしている。レクリエーション活動への参加や起床・就寝時間などはそれぞれの生活スタイルに合わせて本人の希望を優先し、自由な暮らしを大事にしている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	各入居者様の好みを尊重し、その人らしいおしゃれが出来る様に支援している。又、2か月に1回に出張理容をお願いしており、頭髪の身だしなみにも配慮している。			
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	各入居者様と職員間で楽しく会話をしながら、調理の下処理や準備や片付け等を無理なく出来る範囲で行って頂いている。	旬の食材を使い普段から食べ慣れたものを毎食手作りで提供して喜ばれている。調理師資格を持つ職員もおり、「食事作りと盛り付け」「摂食嚥下の評価」などの研修で献立作りに活かし、状態に合わせてきざみやトロミ、ミキサー食で水分を取りながら食事介助し誤嚥予防に努めている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	毎食の食事は栄養バランスを考えた上、提供しております。必要があれば、栄養補助食品も使用している。又、1日に必要な水分摂取量の把握を行い、必要時にはゼリーの提供を行っている。		
42	(16)	○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後、就寝前には声掛けを行い、歯磨きを行って頂いております。一人では難しい方には、職員が付き添いを行い、対応しています。義歯洗浄は、就寝前に職員が預かりし義歯洗浄を行っている。	毎食後声掛けして口腔ケアを行い、重度の方は状態に合わせたケア用品で清潔保持に努めている。「摂食嚥下の評価と口腔ケア」の研修で口腔衛生の重要性を学び、痛みや腫れなどの症状が出た時は速やかに歯科医を受診し、肺炎などの感染症を予防している。	
43	(17)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立に向けた支援を行っている	食事や水分摂取量等を把握し、その方の排泄状況に合わせた定時でのトイレ誘導や声掛けを行っている。又、カンファレンス等を通して、職員同士が話し合いを行い、トイレでの排泄の継続や自立に向けた支援を行っている。	ほとんどの方が定時に声掛けしてトイレ誘導し、オムツの方も定時で取り替えている。カンファレンスで状態の把握に努め、排泄用品や声掛けする時間の見直しを検討し失敗の軽減に繋げている。夜間オムツの方も立位できる方は日中はトイレでの排泄を支援している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	食事の際は、食物繊維が豊富な食材や乳製品を取り入れるよう心掛けている。又、施設主治医の指示を仰ぎ、排便コントロールを行っている。		
45		○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、事業所の都合だけで曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々に応じた入浴の支援をしている	各入居者様のその日の体調に配慮しつつ、声掛けを行い、気持ち良く入浴を楽しんで頂いている。浴槽内に入れない入居者様には足浴を行っている。		
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	各入居者様の生活習慣に合わせて、休息をとって頂いている。夜間帯は、室温や寝具の状態にも配慮しつつ、入眠状態の確認を行い、毎日、安眠できるように支援しております。		
47	(18)	○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	各職員が入居者様の処方薬を把握し理解している。その上で、服薬の際は、入居者様の氏名、日付、食前薬か食後薬の確認を、他の職員にも聞こえるように声出しを行い、誤薬予防にも努めている。又、症状の変化が見られた際には、担当医に報告し指示を仰いでいる。	訪問医が主治医で他科診療も薬局は同じにしている。薬は利用者の担当職員が責任を持って管理し内容も薬剤情報書で理解している。薬の変更時は往診ノートや申し送り、業務日誌で共有して皆で状態を観察しながら、変化が見られた時は医師の指示に従い家族等にも報告している。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	各入居者様の生活歴や趣味等を理解した上で、毎日のレクリエーション活動を考え参加して頂いている。又、タオル畳みや新聞折り等もお手伝いして頂き、毎日、張り合いのある生活を送って頂ける様、支援している。		
49		○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。また、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	各入居者様の希望を伺い、ドライブやお花見、紅葉等、季節に合わせた行事に参加して頂いている。又、入居者様と普段の何気ない会話の中から、行きたい場所等を推測し外出支援に活かすことが出来る様努めている。		
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	入居者様ご自身やご家族様の希望を尊重した上でお金を所持し使える様に支援している。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	電話の希望をされる方には、職員が取り次ぎ、会話をして頂いている。手紙の際は、名前、住所に間違いがないか確認の上、やり取りの支援を行っている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間（玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等）が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激（音、光、色、広さ、温度など）がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	施設内では常に季節に合った花や植物を飾り、生活感が感じれるよう工夫を行っている。又、湿度や温度の管理も行い、快適な空間で過ごして頂けるように対応している。	日中はほとんどの方がホールで茶話会や体操、歌、タオルや新聞たたみを楽しみながら過ごしている。調理の音や匂いが五感刺激となって食事が待ち遠しく感じられ、生活感漂う共用空間となっている。また午前と午後の消毒、温湿度管理、清掃などの環境整備に努め、居心地良い暮らしを提供している。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	ホール内では、テレビ鑑賞や、好きな歌を歌ったり、体操をされたり他の方と談笑されたりしながら、日々楽しく過ごして頂いている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	居室内の環境はご本人様やご家族様の希望を尊重し、使い慣れた物や馴染みの物を引き続き使用して頂き、快適に過ごして頂けるように対応している。	居室は車椅子の移動が楽にできる広さがあり、備品としてソファや椅子などがある部屋や私物の家具や仏壇などを持ち込んで自分らしく設えて自宅と近い環境で暮らしている。入り口にはそれぞれの名前が入ったプレートがあり、災害時には裏返して避難済みの目印にしている。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」や「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	建物内はバリアフリーとなっており、廊下やトイレには手すりが設置されております。安全に移動が出来ます。又、分かりやすい様に目印を付け、ご自分で迷わず移動が出来る様に工夫を行っている。		